

平成 20 年度 第 2 回 幹事会議事録

(社) 日本地すべり学会

日 時：平成 20 年 8 月 26 日 (火) 1 時 00 分～15 時 00 分

場 所：箱根湯本富士屋ホテル 1 階会議室

出席者：

区 分		氏 名	出欠	区 分		氏 名	出欠	
三役等	会長	丸 井 英 明	○	支 部 長	北海道支部	前 田 寛 之		
	副会長	吉 松 弘 行	○		東北支部	事業計画部長兼任		
	副会長	広 嶋 孝 也	○		新潟支部	川 邊 洋	○	
	専務理事	綱 木 亮 介	○		関東支部	鵜 飼 恵 三	○	
			中部支部		土 屋 智	○		
委員	表彰委員長	古 谷 尊 彦	○		関西支部	藤 村 尚	○	
	教育問題委員長	岩 尾 雄 四 郎			九州支部	宜 保 清 一	○	
各 部 部 長	総務部部长	小 野 慎 吾	○		支 部 長 代 行	北海道支部	米 田 哲 朗	
	編集出版部部长	阿 部 真 郎	○			東北支部	千 葉 則 行	○
	事業計画部部长	檜 垣 大 助	○			新潟支部	稲 葉 一 成	
	国際部部长	宮 城 豊 彦	○	関東支部		若 井 明 彦		
	研究調査部部长	八 木 浩 司	○	中部支部		小 野 和 行		
部 長 代 行	総務部	松 尾 新 二 朗		関西支部		末 峰 章		
	編集出版部	新 屋 浩 明		九州支部		福 田 順 二		
	事業計画部	中 村 直 登	○	委 員		財政委員長	総務部長代行兼任	
	国際部	原 田 敏 雄				広報委員長	太 田 英 将	○
	研究調査部	榎 田 充 哉				庶務委員長	山 崎 勉	○
	編集出版部代理	梅 村 順			出席者数	19		
	研究調査部代理							

○開会

- ・会長挨拶
- ・前回議事録報告・承認

I. 議題

I-1. 日本地すべり学会再構築のための投資計画(案)及び地震地すべり特別委員会について(資料-2・資料-19)

丸井会長より、投資計画(案)とそれに関連する地震地すべり特別委員会構成(案)について説明がなされ、以下の検討・提案が行われ、投資計画の基本方針が了承された。

・財政措置について

投資に充当する原資については、基金の一部取り崩し案と一般会計対応案の2案が提示されたが、執行部の提案する基金の一部取り崩し案で進める方針となった。

諸般の事情によりやむを得ず一般会計対応案とせざるを得ない場合は、研究委員会費による3件のテーマは、凍結ないし地震に沿ったテーマに変更をするものとする。

・地震特別委員会(仮称)について

投資計画の柱となる地震特別委員会(仮称)に関し、分科会とその主担当の推薦がなされた。

国際共同研究分科会は、四川・パキスタン・ヴェトナムなどを想定している。

再構築案はこれまでの方針の大きな転換であり、これまでの活動状況の総括が不可欠であるとの意見が出された。

投資期間については、集中投資を2年とし、5カ年計画で進めることを基本方針とする。

・ホームページリニューアルについて

資料-2の3ページ「しかしながら・・・高いものとはいえない。」の記述は、正確な認識にやや欠けるものであり、削除することになった。

岩手・宮城内陸地震では、学会としての対応は十分であったが、学会の認知度が低いことは否めず、マスコミへの積極的な対応(研究発表会のマスコミへのPR、災害報告書のマスコミ担当への送付、取材記者へのフォロー等)の必要性が認識された。

I-2. 研究発表大会の開催地について(H21開催地・H22開催ブロック)

- ・平成21年度の開催地は新潟とすることが了承された。
- ・平成22年度の開催支部は、西日本グループの関西支部か九州支部とする。
- ・開催県はH.20年3月幹事会で決定する。開催支部と開催県については、西日本グループで協議する。

I-3. 学会賞審査報告・国際賞候補について(資料-4・5-1・5-2)

古谷委員長および丸井会長より、選考理由および選考過程について報告された。

- ・6月の表彰委員会で検討し、論文賞を若井氏、奨励賞を岡田氏に決定し、メールによる臨時理事会で承認された。
- ・谷口賞と国際賞については、候補者がみつからず、今年度は選考が見送られた。

I-4. その他

(1)国際会議について

宮城委員長から、H20国際会議の進捗状況について、以下の報告がなされた。

- ・原稿は67編が集まっているが、当初予定の2/3程度にとどまっている。
- ・予算はほぼ確保しているものの、参加者が減る可能性もあり、若干の不足も予想されるため、その対応として企業広告の募集に力を入れる。

(2)旅費規程改定(案)について(資料-18)

執行部から、幹事会出席旅費の支給に関する運用改訂(案)が提示され、これに関する議論がなされ、今年度の改訂は否認とし、来年度に再提案することになった。

- ・改訂(案)の骨子は、支部長への幹事会出席旅費支給の原資を、支部交付金の一律減額によりまかなうとするものであり、年度途中で改訂が提案された。また全支部の賛同をもって承認とするとの提案がなされた。
- ・これに対し、事前に討議を行った新潟支部からは、支部助成金の減額は支部活動を停滞させるとの反対意見が出された。一方で提案に賛成する意見や半額支給にしてはどうか、いままでのとおりで良いとの意見もあった。
- ・年度途中で改訂については、助成金の返金や今年度の運営に関わるもので、支部としては対応に苦慮するとの意見があった。

Ⅱ. 報告

Ⅱ-1. 企画委員会報告(各企画委員長)

各企画委員長より、活動報告・活動予定・自己評価等が報告された。

(1) 出版事業企画委員会(資料-6)

・Landslide in Japan の編集作業について報告がなされた。

(2) 情報公開企画委員会(資料-7)

・HP リニューアルに向けた準備について報告がなされた。

Ⅱ-2. 各部, 支部からの報告(各部長, 支部長)

各部長, 支部長より、活動報告・活動予定・自己評価等が報告された。

(1) 総務部

・次回の幹事会は、11月28日(金)に東京国際フォーラムで開催する。

(2) 研究調査部(資料-8)

・岩手・宮城内陸地震に関する活動報告がなされた。

(3) 編集出版部(資料-9)

・7月号の発刊状況と掲載までの日数減への取組について報告がなされた。

(4) 事業計画部

・H.21 シンポジウムと研究発表会への取組について報告がなされた。

(5) 関東支部(資料-14)

・第47回研究発表会の準備状況と今後の現地検討会の予定が報告された。

(6) 東北支部(資料-12)

・岩手宮城内陸地震に関し、土木学会・地盤工学会・地すべり学会・東北建設協会の4学協会の合同調査委員会の発足とその活動について報告、およびそれに伴う年間事業計画の見直しについて報告がなされた。

(7) 新潟支部(資料-9)

・平成21年度の研究発表会にむけて、準備会を組織し、作業をスタートしたことが報告された。大会は、支部規模にあわせたものとし、大学施設を利用するなどして参加費の低減を図り、参加者の増加を図るとの方針が報告された。

(8) 中部支部(資料-15)

・支部10周年シンポジウム「これからの地すべり対策」を10/22長野市で実施する。

(9) 関西支部(資料-16)

- ・秋の現地見学会「紀伊山地における四万十地すべり(仮題)」を準備中。応用地質学会と共催。

(10) 九州支部(資料-17)

- ・技術検討会報告の実施と研究活動報告の予定が報告された。

閉会

以 上

(記録：山崎、文責：小野)